

木造住宅における熱容量の住宅熱性能に及ぼす影響に関する研究

目次

第1章	序論		
1-1	研究背景・目的		P1
第2章	シミュレーションソフト「ESPAR/M」による暖房負荷計算		
2-1	シミュレーションの目的		P2
2-2	モデル住宅プラン		P3
2-3	シミュレーション用住宅モデルの設定		
2-3-2	躯体仕様		P7
2-3-3	開口部仕様		P8
2-3-4	熱容量仕様		P9
第3章	各仕様の灯油消費量の低減		
3-1	検証の目的		P11
3-2	各都市における灯油消費量		
3-2-1	0地域 帯広、旭川、名寄		P12
3-2-2	I地域 軽井沢、札幌、増毛		P15
3-2-3	II地域 佐久、盛岡、角館		P18
3-2-4	III地域 松本、郡山、本荘		P21
3-2-5	IV地域 水戸、福島、新潟		P24
3-2-6	V地域 名古屋、京都、鳥取		P27
第4章	オーバーヒートの検証		
4-1	検証の目的		P30
4-2	特定日におけるオーバーヒート効果		
4-2-1	0a帯広		P32
4-2-2	0b旭川		P35
4-2-5	I b札幌		P38
4-2-13	IVa水戸		P41
4-2-15	IVc新潟		P44
4-3	考察		P47
	資料:各仕様のオーバーヒート日数(11~4月)		P48
第5章	実質有効熱容量の算定		
5-1	次世代基準による有効熱容量の算定		P51
5-4	考察		P54

付録 平成19年度室蘭工業大学建設システム工学科卒業論文  
「木造住宅における熱容量の住宅熱性能に及ぼす影響に関する研究」 山内麻理恵

第4章、第5章の分析結果は、本技術情報には紙面の制限から代表的な都市のみ掲載した。卒論では、0~V地域、日射量a~c地域の21都市について分析を行っている。他の都市については、添付のCD-Rを参照されたい。特に卒論資料編には、標準気象データによる冬期全期間の詳細な温度変動グラフが掲載されているので、参照されたい。